

国土交通省総合政策局
情報政策課交通統計室
平成24年9月5日(水)公表

トラック輸送情報

平成24年6月分

平成24年7月分は10月上旬公表予定

*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通統計室

電話 03-5253-8111 F A X 03-5253-1567

担当 中倉 (課長補佐) 28-721

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

トラック輸送情報（平成24年6月分）

平成24年9月5日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

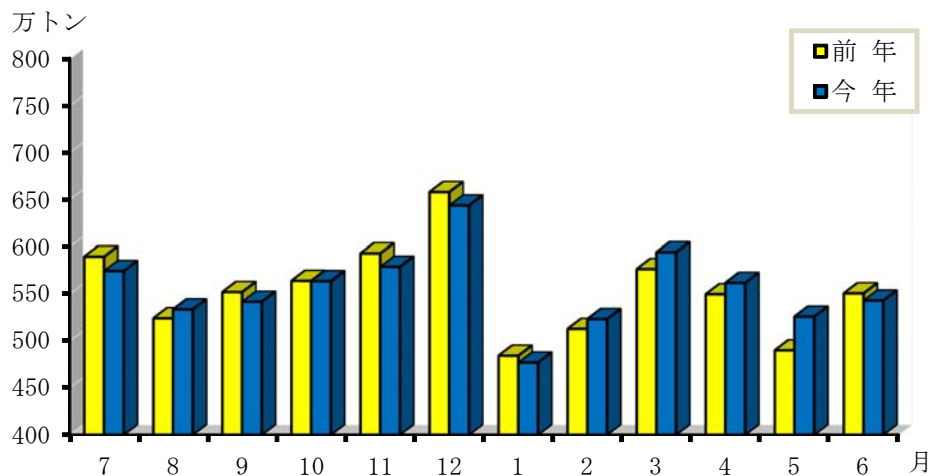
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

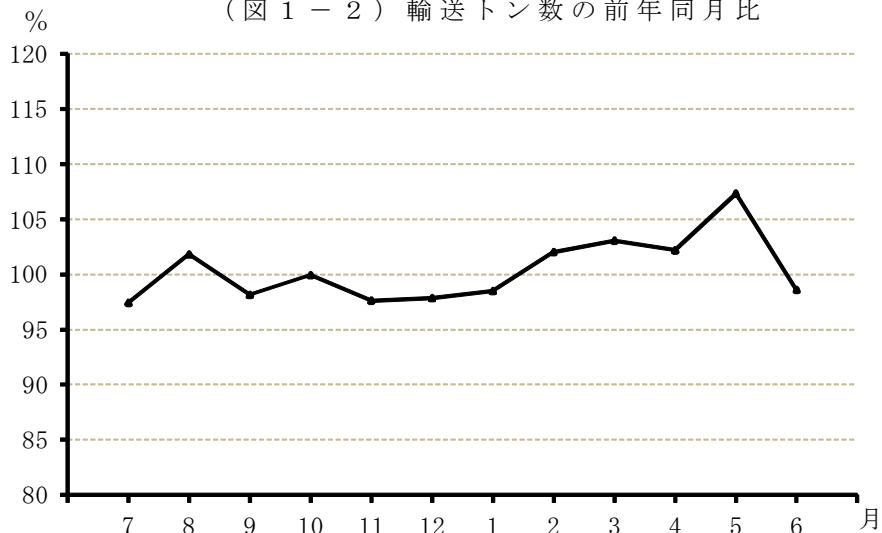
調査対象26社の本月の輸送量は、5,433,161トンで、前月と比べ総輸送量が約171千トン増加したため、前月比103.3%（季節調整済み95.6%）となり、前年同月との比較では、約77千トン減少したため、前年同月比98.6%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は24.9日で、前月と比べ1.7日増加し、前年同月との比較では、0.3日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、218,199トンで、前月と比べ約9千トン減少したため、前月比96.2%となり、前年同月との比較では、約5百トン減少したため、前年同月比99.8%の実績であった。

（図1-1）輸送トン数の推移



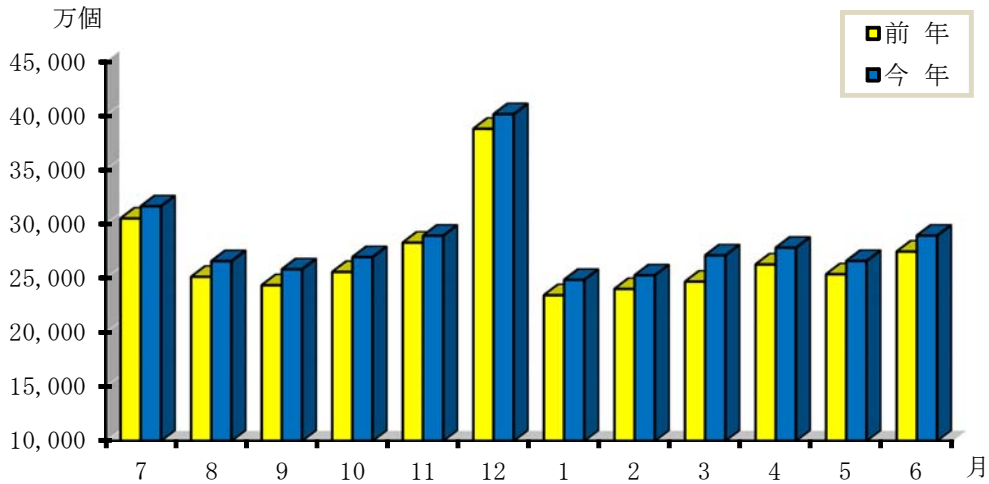
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



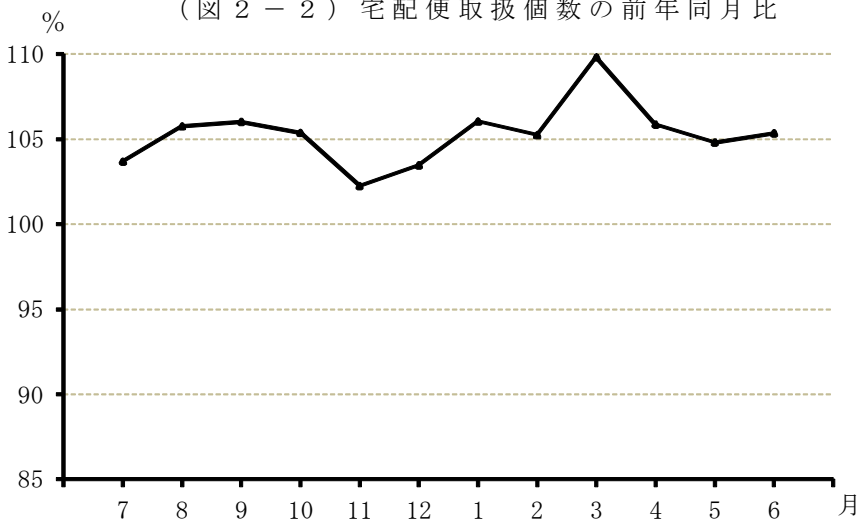
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、289,393 千個で、前月と比べ 約 23,369 千個増加したため、前月比 108.8% (季節調整済み 99.7%) となり、前年同月との比較では、約 14,678 千個増加したため、前年同月比 105.3%の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社(26 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、「食料工業品」、「日用品」、「その他 (宅配便)」の輸送量が増加したと回答する事業者が多く見られた一方で、「その他 (百貨店配送品)」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。「食料工業品」、「日用品」の増加要因としては、工場・生産地からの貨物増及び倉庫から出る貨物増であり、「食料工業品」の主な増加地域は関東地方、北陸信越であった。

前年同月と比べると、「食料工業品」、「その他 (宅配便)」の輸送量が増加したと回答する事業者が見られた一方、「その他 (百貨店配送品)」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。なお、「機械」については、増加と回答した事業者と減少と回答した事業者が同程度見られたが、品目として「機械部品」の増加、地域として「大阪」における減少を報告する事業者が目立った。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 ら ず	減	著 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	2	13	1				
	金属製品	1	2	18					
	機 械	1	5	13	1	1	愛知	4	
	化学工業品		5	16	1				
	繊維工業品	1	3	17	1				
	食料工業品	1	8	12			製造食品、飲料	関東地方、北陸信越	4, 7
	日 用 品	1	9	10	2		その他の日用品		4, 7
	そ の 他	1	5	10	1	2	宅配便 その他(百貨店配送品)		
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		4	11	2	1		4	
	金属製品		2	16	2	1			
	機 械	1	5	9	5	1	機械部品	4	
	化学工業品	1	3	12	6			大阪 関東	4, 7
	繊維工業品		3	14	5				4
	食料工業品	1	4	12	3		製造食品		
	日 用 品	1	4	11	5	1		関東	
	そ の 他	1	2	9	2	5	宅配便 その他(百貨店配送品)		2

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者801社/調査対象事業者数1,068社)の輸送量は、前月比 105.2%、前年同月比 101.6%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	101.6 %	99.9 %	111.1 %	97.7 %	105.0 %	106.3 %	95.7 %	101.2 %	98.2 %	99.4 %	94.7 %	
前 月 比	105.2 %	115.1 %	104.7 %	102.9 %	106.6 %	103.0 %	104.9 %	103.6 %	99.1 %	96.0 %	97.5 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比115.1%、対前年同月比99.9%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「工業用非金属鉱物」、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、工場・生産地からの貨物増等により、「水産品」、「紙・パルプ」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比104.7%、対前年同月比111.1%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「食料工業品」が、建設関連の需要増等により「金属製品」、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「日用品」が、景気の影響等により「その他の石油製品」が、季節的需要減等により「動植物性飼・肥料」、「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月および以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比102.9%、対前年同月比97.7%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「金属製品」、「機械」が、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比106.6%、対前年同月比105.0%であった。品目別では、季節的需要増等により「食料工業品」が、天候の影響により「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、倉庫への入出庫減等により「穀物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降については減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比103.0%、対前年同月比106.3%であった。品目別では、季節的需要増等より「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「紙・パルプ」が、天候の影響により「水産品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。次月はほぼ横ばい、以降については減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比104.9%、対前年同月比95.7%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増等により「金属製品」が、季節的需要増等により「食料工業品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「その他の窯業品」、「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前年同月比103.6%、対前年同月比101.2%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増や季節的需要増等により「野菜・果物」、「水産品」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、建設関連の需要増により「鉄鋼」が、工場・生産地からの貨物増等により「機械」が、輸出入貨物の増等により「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比99.1%、対前年同月比98.2%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「野菜・果物」、「その他の農産品」が、建設関連の需要減や工場・生産地からの貨物減等により「非鉄金属」、「機械」、「その他の窯業品」が、デパート・スーパーからの貨物減等により「食料工業品」が、天候の影響により「輸送用容器」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比96.0%、対前年同月比99.4%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増等により「金属製品」が、季節的需要増等により「日用品」、「取り合わせ品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減や季節的需要減等により「野菜・果物」、「その他の農産品」が、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、天候の影響により「工業用非金属鉱物」、「その他の窯業品」等の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比97.5%、対前年同月比94.7%であった。品目別では、建設関連の需要増により「鉄鋼」が、商社問屋からの貨物増により「紙・パルプ」が、倉庫への入出庫増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、天候の影響により「水産品」が、工場・生産地からの貨物減により「その他の化学工業品」が、商社・問屋からの貨物減により「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月は減少傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	北	東	陸	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増			1								1	1	3
	減						2				1	1		4
2. 野菜・果物	増	1	3							4	1	1		10
	減	1	1								4	11		17
3. その他の農産品	増	1							1			1		3
	減										2	3		5
4. 畜産品	増	1												1
	減										1	1		2
5. 水産品	増	3	1						1	2		1		8
	減							1		1		1	1	4
6. 木材	増	2	1								1	1	1	6
	減	3								1	2	2	1	9
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増						1			1		1		3
	減						1					1		2
9. 金属鉱物	増							1						1
	減							1				1		2
10. 砂利・砂・石材	増	10	1		1	1				1				14
	減	1				1				5	1	6		14
11. 工業用非金属鉱物	増	5	3								1	1		10
	減		2							1	2	3		8
12. 鉄鋼	増		1							2	2	3	2	10
	減										1	3		4
13. 非鉄金属	増					1		1			1	1		4
	減				1						2	1		4
14. 金属製品	増	1	2	1	1	1	1	3	1			2	1	13
	減						1				2		1	4
15. 機械	増			2			3	2	3	1		2		13
	減					1	2	2	2	2	4	3		14
16. セメント	増	2	4				1			2		2		11
	減						1			2		5		8
17. その他の窯業品	増	2				1								3
	減	1				1	1	1	2	3	2			11

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		品目										
18.揮発油	増											
	減			1	1				1			3
19.その他の石油製品	増	4						1		1		6
	減	5	2		1		1	1		4		14
20.コークス・その他の石炭製品	増	1	1		1					1		4
	減											
21.化学薬品	増				1			1				2
	減								1			1
22.化学肥料	増							1				1
	減	1			1				1	1		4
23.その他の化学工業品	増	1						2				3
	減							2	1	2	1	6
24.紙・パルプ	増	2	1				1		1		1	6
	減				2	1		1	1	1		6
25.繊維工業品	増								1			1
	減											
26.食料工業品	増	2	5	2	2		5	8	1	5	1	31
	減	2		1		1		1	2	6		13
27.日用品	増				1		3	2		4		10
	減		3	1					1	3	1	9
28.その他の製造工業品	増		1					2		1	1	5
	減							1		2		3
29.金属くず	増											
	減										1	1
30.その他のくずもの	増							1				1
	減							1				1
31.動植物性飼・肥料	増	6								1		7
	減	2	2	3				2				9
32.廃棄物	増		2					2				4
	減	1	1					2		1		5
33.輸送用容器	増		1		1			1		2		5
	減								2	1		3
34.取り合せ品	増							3		4		7
	減		2					1	1	1		5
35.その他	増		1	2	2	1	2	3	1	1		13
	減		1	1	2	1	2	4	3	2		16